

書名	二十二社 朝廷が定めた格式ある神社22			著者名	島田 裕巳 / 著		
出版社	幻冬舎	ISBN	978-4-344-98576-6	本体価格	¥880	発売	2019/12/2
内容	二十二社とは、天変地異が起きたとき国(朝廷)が神前に供物(幣帛)を捧げた22の第一級神社で、平安時代後期1039年、後朱雀天皇が定めた神社の格式制度である。地域は京都と奈良が中心だが三重、大阪、滋賀、兵庫にも1つずつある。伊勢神宮、伏見稻荷大社、春日大社のような有名神社はもちろんあるが、丹生川上神社のようにあまり知られていない神社もある。出雲大社や厳島神社は入っていない。そこには、どのような基準や意味があったのか。また、どんな由来や特徴があるのか。古の神に思いを馳せる画期的な神社ガイド。						

書名	ねずさんの奇跡の国 日本がわかる万葉集			著者名	小名木善行 / 著		
出版社	徳間書店	ISBN	978-4-19-864991-3	本体価格	¥1,600	発売	2019/12/6
内容	古典研究を通して日本論、日本人論が人気のねずさんによる、万葉集論。万葉の心がわかれば、本当の日本が見えてくる！						

書名	鏡の古代史			著者名	辻田 淳一郎 / 著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-703663-5	本体価格	¥2,000	発売	2019/12/23
内容	邪馬台国から倭の五王まで。鏡=権力 となった古代史の謎に迫るなぜ、鏡が政治権力に 使われたのか。卑弥呼の「銅鏡百枚」の候補、「三角縁神獣鏡」製作地はどこか。邪馬台国から倭の五王まで、古代史の謎に迫る。						

書名	「古今和歌集」の創造力			著者名	鈴木宏子 / 著		
出版社	NHK出版	ISBN	978-4-14-091254-6	本体価格	¥1,500	発売	12月上旬入荷
内容	第7回古代歴史文化賞 大賞作。なぜ梅にはウグイスなのか。なぜ秋は悲しいのか—。あらゆる詩歌や文学的感受性の〈型〉を創りあげた『古今和歌集』。第一線の古典和歌研究者が、レトリックと配列の緻密な分析から、天才編集者・紀貫之の企図を大胆に読み解く。						

書名	埋もれた都の防災学			著者名	釜井俊孝／著			
出版社	京都大学学術出版会	ISBN	978-4-8140-0042-5	本体価格	¥1,800	発売	12月上旬入荷	
内容	第7回古代歴史文化賞 受賞作。半分だけ倒壊したコロッセオ、大阪城の堀跡に生じた凹み、年々高さを増す天井川…。これらはいずれも、“やり過ぎてしまった”開発に対する自然からの反撃である。地下に埋もれた災害の痕跡は、人々がその地で自然と対峙してきた歴史を伝え、現代に通じる災害リスクを教えてくれる。私達の暮らす町の下には、どのような歴史が眠っているのだろうか？地盤災害と人間の関係を探る防災考古学への招待。							

書名	縄文時代の歴史			著者名	山田康弘／著			
出版社	講談社	ISBN	978-4-06-514368-1	本体価格	¥920	発売	12月上旬入荷	
内容	第7回古代歴史文化賞 受賞作。1万年以上続いた世界史上ユニークな文化「縄文」とは？縄文時代の人々はどんなものを食べていた？縄文時代の家や集落の姿は？縄文時代の墓は？縄文時代に農耕はあった？縄文時代は平等な時代だった？縄文時代に戦争はあった？縄文土器は「鍋」だった？最新の知見で描く、「縄文時代」の通史、決定版！「縄文」のすべてがわかる！							

書名	古代日中関係史			著者名	河上麻由子／著			
出版社	中央公論新社	ISBN	978-4-12-102533-3	本体価格	¥880	発売	12月上旬入荷	
内容	第7回古代歴史文化賞 受賞作。607年、日本は隋の煬帝に「日出ずる処の天子」で名高い書状を送る。以後、対等の関係を築き、中国を大国とみなすことはなかった——。こうした通説は事実なのか。日本はアジア情勢を横目に、いかなる手段・方針・目的をもって中国と交渉したのか。本書は、倭の五王から、5回の遣隋使、11回の遣唐使、さらには派遣停止後まで、500年間に及ぶ日中間の交渉の軌跡を「常識」に疑問を呈しながら、実証的に描く。							

書名	風土記 日本人の感覚を読む			著者名	橋本雅之／著			
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-703582-9	本体価格	¥1,600	発売	12月上旬入荷	
内容	第7回古代歴史文化賞 受賞作。七一三年、各国に下された官命に基づいて編纂された「風土記」。各地に伝わる伝説や地名の由来、風土の特徴などを記す、その地誌としての性格をふまえ読み解けば、日本文化の深層が見えてくる。「天の羽衣」伝説に表れる日本人特有の罪と恥の意識、古代の人々の時間に対する認識や、村を中心とした空間のとらえ方などを通して、日本人のこころを解き明かす。							